



# 加吉だより

加古小学校通信  
令和5年6月号  
No.9 (325号)

## 「生きやすい社会を作っていくために」

校長 吉田 博明

### ＜参観された方々の感想＞

- 今日の授業を参観できて良かったです。子どもたちの考えていることはすごいなと感心しました。こういう授業がないと、テレビ等で聞いたり見たりするだけでは、きっと出てこない意見なんだろうなと思いました。これからいろんな思いや考え方を持った人たちとたくさん出会うと思うので、そんなときにどう接するのか、なんて言葉をかければいいのか、とてもいい勉強になったのではないかと思います、前田さんのお話を、もっと聞いてみたいと思いました。
- さくらさんとひなたさんの対話形式からの授業展開は、子どもたちの意見を引き出すのに有効だったと思います。グループ討議も様々な意見が出ていました。ホワイトボードの使い方も大変良かったと思いました。素晴らしい授業をありがとうございました。積み重ねが大切ですね。
- LGBTQのことはもちろん、より良い人間関係の築きを、改めて学ぶことができました。人と人との関りで相手のことを知ることは、たくさんのコミュニケーション、会話をすることで相手への思いやりが生まれるので、やはり知ることは大事だと思いました。個人個人が、世の中にはいろいろな考え、外見、様々な人がいることを理解することで、より良い世の中で、明るい未来、生活ができるようになるのかなと改めて思いました。良いお話をありがとうございました。
- 前田さん、本日はどうもありがとうございました。LGBTQについて、理解を深めるために一番いいのは今日前田さんに直接お会いしてみて“前田さんに会うこと”が正解!! と思いました。何度か子どもたちから聞いたり、メディアで見たり、知識として言葉にはふれていましたが、初めて前田さんにお会いしてみて、生の声を聞いて、何の違和感もなく、一人の人間、一人の個性、多様な性のあり方を、自分の中に感じることができました。授業中にもおっしゃっておられましたが、「その人のことを知るには、見た目や勝手な思い込みでなく、直接のその人に聞くこと」、まさにそれを実感できたと思います。貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。
- 今までLGBTQの方と出会ったことがありませんでしたし、LGBTQの授業も受けたことがありませんでした。何となくLGBTQはテレビの世界の話のように、今まで感じていました。数年前から、子どもが学校でLGBTQの授業を受けたことを家で教えてくれるようになって少し身近に感じてくるようになったレベルです。ですので、今回保護者も参観させてもらえ、とてもありがたかったです。「授業は重たい話を聞くだけかな？」

と書いていましたが、全く重くなく、子ども向けにわかりやすく、子ども同士意見を出し合え、参観している側も面白い授業だと思えました。私自身も、「今後身近な人にカミングアウトされることがあったらどうしよう…」と考えたとき、受け入れようとはもちろん思っていますが、とても驚くだろうし、本当に受け入れられるのか?と思います。しかし前田さんがお話しされた、「受け止めることはできるよね」という言葉が、私の心を軽くしてくれました。「確かに!!受け止めることはできる!!」と。LGBTQの授業を、学校の先生だけがするより、前田さんが来て直接お話ししてもらえる方が、説得力が違うので、すごく有難いことだと思います。今後も加古小に来て、講演会、授業をしていただきたいです。ありがとうございました。

○前田さんの授業があると子どもたちが家でもいっぱい話してくれて、授業に興味があり参加させてもらいました。初めて聞くことや知ることがいっぱいあるから、子どもたちも引き付けられるのだと思います。私自身はアパレルの仕事で、海外や東京で仕事をすることも多かったため、身近にたくさんいましたし、カミングアウトされても驚きはなく、「あ、やっぱり?!」「そうやんな!?!」くらい自然なことでした。(出身どこやねん…くらいの感覚でした)。でもその子たちが今まで辛かったこととか聞くと、大変だったのはわかります。なので、こうして子どもたちが、早いうちから実際に会って話を聞いたり、接する機会があることは、とても良いと思います。差別は無知から生まれてしまうと思うので…。いろんな人と出会い、知ること、人それぞれでいいのだということ。前田さん自身の体験をもって伝えてくれることに感謝します。

○「言葉について考えよう」と、今日の内容を子どもたちに話しました。彼女、彼氏って普通に聞いて何も疑問に感じたことはなかったけれど、大丈夫と思っても、相手からすると傷つける言葉になることを知りました。「好きな人」「付き合っている人」なら問題ない。相手については、「パートナー」という使い方を知りました。カミングアウトされたら最初は戸惑うけれど、何も言わないのは良くない。話してくれたのに、「ダメなのかな?」と、逆に嫌な気持ちにさせてしまうから。本人に優しく聞いてあげる。「いつからそうだったの?」「一人で悩んでいたの?」。でも、何で何でと聞いてばかりも嫌な気持ちになるかもしれないから、気をつけないと思う。聞いたうえで、「話してくれてありがとう。」「自分らしく生きられるなら、それでいいと思うよ。」「大丈夫よ。」「応援するよ。」。話してくれた人も、気持ちが楽になると思う。気持ちの良い言葉で、絶対差別用語はダメ。

一人一人違って良いと思う。その人の内面が好きなら、友だちを大切にしたいと思いました。家族で話し、学ぶ機会になりました。ありがとうございました。

○この授業を通じていろいろな人がいることに気づき、相手を知ることの大切さを学べたと思います。自分は何なのか、名前もないような悩みを持って生きている人はたくさんいると思います。いつか、このような授業をしなくてもよい、いろいろな人がいるのが当たり前な、生きやすい社会を作っていくために、今の子どもたちに教えていってほしいと思いました。